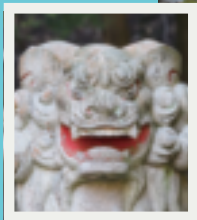
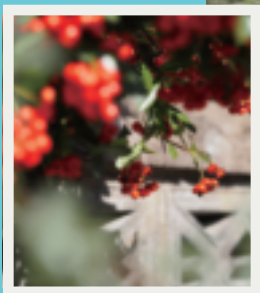


うらの ここの

南越前町
河野

01
STUDICAL



うらの わたしの

河野を歩く

Walk around Kono and

河野の裏が、おもしろい。

河野は、日本海に面する

北前船の歴史が残る漁村

北前船はみんなが知る河野の”表の部分“だ

僕は住民をガイド役に

”まち歩き“を行った

日常に近いところをめぐる

その人の好きが伝わり

出会うはずのなかった河野と出会えた

河野の人は自分のことを「うら」と呼ぶ

この土地を愛し

自分らしい生き方をつくる人

そんな人々と出会うことで

裏側の河野とつながる感覚がある



Profile

たがみ かい
田上 夏伊

南越前町地域おこし協力隊
建築士

1996年生まれ
福井県 福井市出身

これは、そうして感じた
”裏の部分“を伝える一冊

本を片手に足を運び

あなたにとつての河野が見つかるよう
まちの人との距離を縮められるよう
そんな想いで、この本をつくった

さあ、うらのこうのを探しに
まち歩きならぬ”うら歩き“の
足跡をたどってみよう

うらの
こうの

01 MINAMIECHIZEN
LOCAL-STUDIES



まち歩きって

What's Kono Museum ?

河野のまちを“屋根のない博物館”として歩く



地域をまるごとひとつの博物館とする
エコ・ミュージアム(※)という考え方がある。
建物・形式・屋根の概念を取り払い、
地域の魅力、資源、記憶そして住民を
作品に見立てていく。

住民は学芸員になって
人々にわがまちの魅力を伝える。
僕もこの考えを元に河野を歩いた。
そうしていくうちに、隠れていた
河野の一面がだんだん見えてきた。

エコ・ミュージアムって



What's Eco-Museum

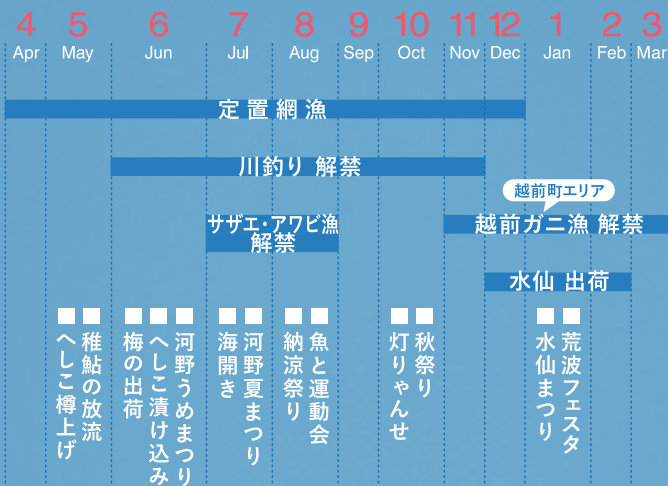


What's Eco-Museum ?

(※)▶エコ・ミュージアムとは？

—1970年代フランス
発祥の取り組みで、地域
住民が中心になって地域資源を
保存～育成～展示し伝えて
いくことで地域発展を促す。

KONO・EVENTs



1
y
e
a
r

イベント行事スケジュール



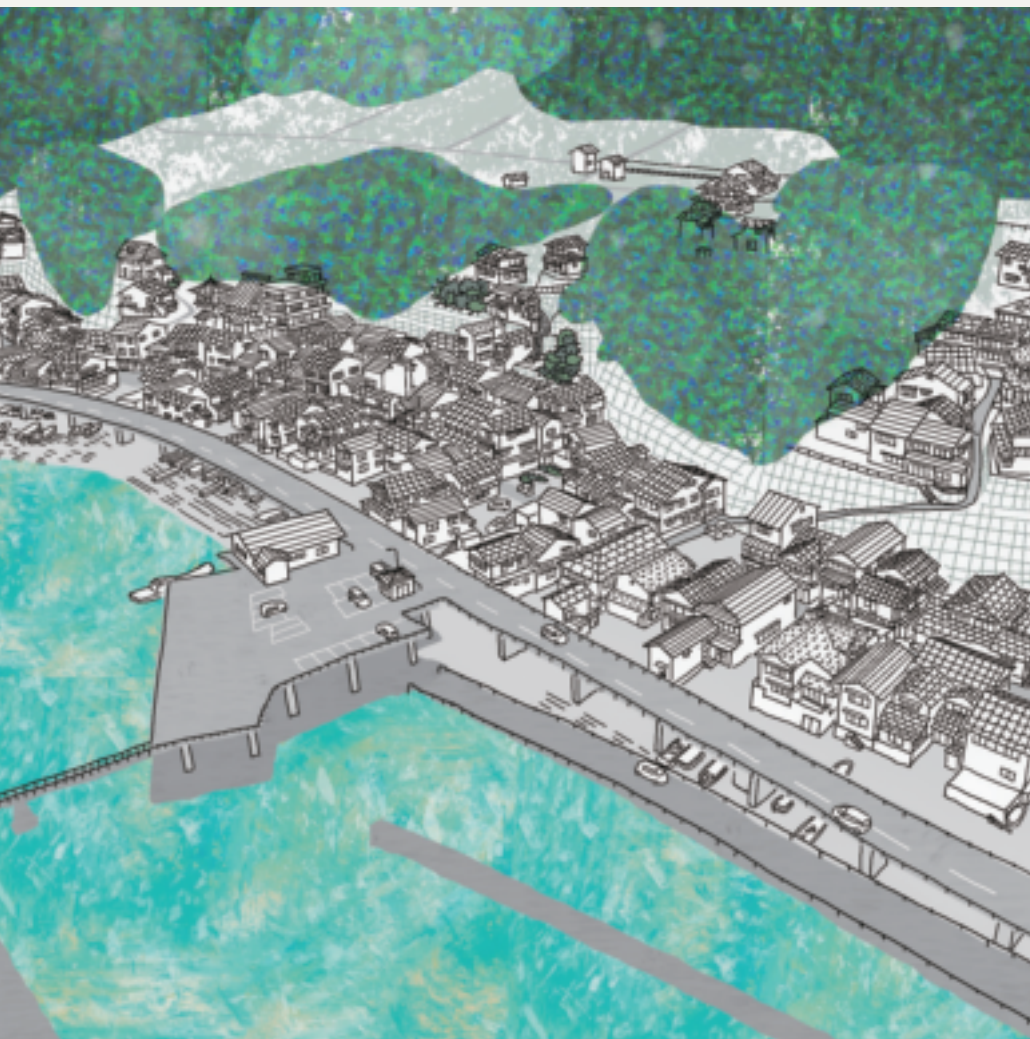
- 漁港
- 海成段丘
- 洞窟 ○ 神社
- 温泉

甲樂城

海と地続きの街なみ

35.851412887266946, 136.0415581541628

KABURAKI



MAP
A

甲楽城漁港
Kaburaki Gyoko

見晴らしいな



裏・絶景ポイントや

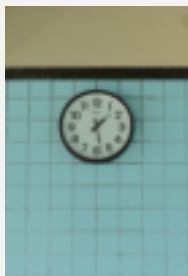
港

と集落の距離がとても近い甲楽城漁港。地元の釣り人や海人(あま)がいたり、引退したおっちゃん漁師たちがのんびり海を眺めたりしている。何隻かの小舟は個人で漁をするためのもので、大きい船は17人のチームで行う定置網漁のための漁船だ。北前船主通り近くの河野歴史文化ふれあい会館には定置網の資料・模型があり、河野の漁業をもっと知りたいなら漁港に行く前に立ち寄るのもおすすめだ。

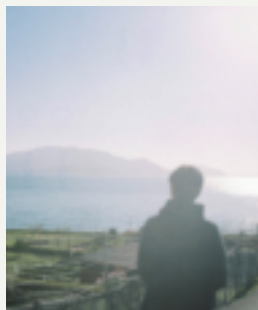
二ノ宮神社の高台から
大好きな風景です



段丘上の農地

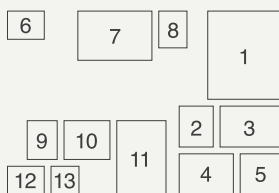


中 道・住宅街の抜け道から東に登っていくと段丘上の畑エリアへ。視界いっぱいに海が広がり歩いているだけで最高の気分だ。まち歩きをした方がここを気に入り、放棄された畑を借りて養蜂を始めた。夏は、すぐそばの海で花火があがり迫力満点の音が崖に反響して楽しい。





- 1-農地 2-畑を見下ろす人 3-抜け道
 4-花の収穫 5-細い抜け道 6-中道
 7-大浴場 8-時計 9-神社の階段
 10-お神輿 11-下長谷の洞窟 12-火
 葬場跡地 13-お地藏様



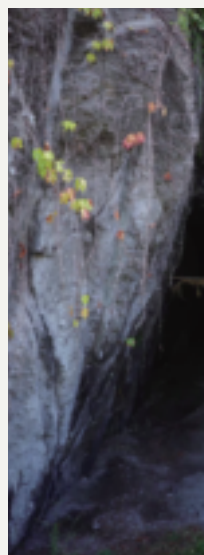
シーサイド温泉ゆうばえ



西 側に夕陽の沈む水平線、南側に若狭湾を囲む半島群がおぼろげに浮かび、癒されながら温泉に入る。仕事終わりに足しげく通った。こじんまりとしたサウナで交わす常連さんとの世間話はいつも楽しく、心も体もリフレッシュできる。

後 つねよし 醍醐天皇と皇子 恒良親王を御祭神とする二ノ宮神社。敗戦で逃れた恒良親王を護るため、二ノ宮神社の真下にある下長谷の洞窟にかくまったという伝説がある。境内からは集落ぜんぶを見渡せ、社殿と鳥居の方角は漁港を向いているように見える。漁村としての海への祈り・信仰心をひしひしと感じる。

しもはせ 下長谷の洞窟 二ノ宮神社

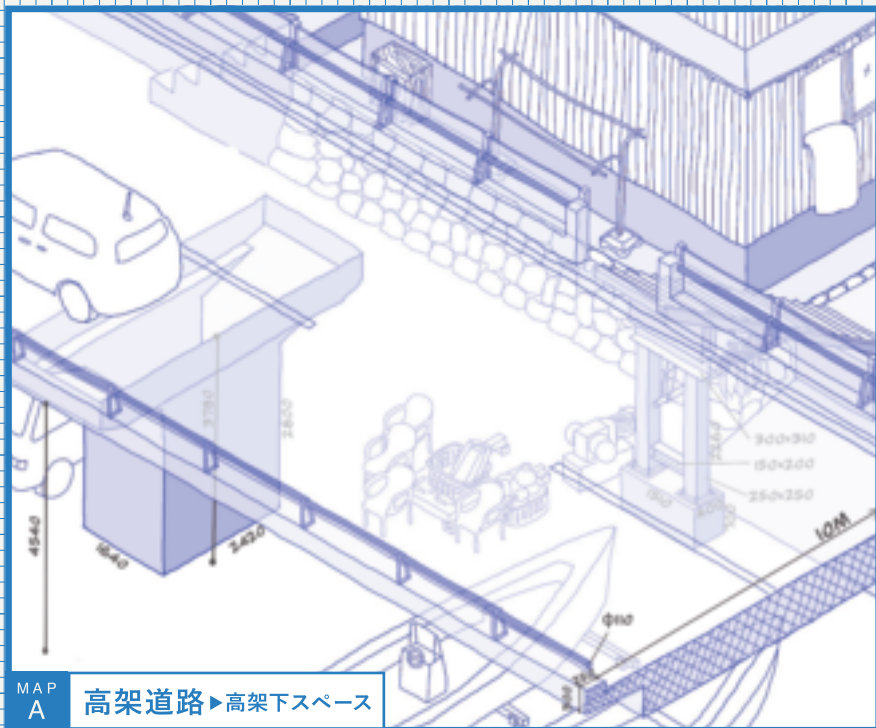


火葬場跡地 岩 肌がむき出しの大きな壁。ここは火葬場跡地で、中心部に斎場ができるまで集落で火葬していた。亡骸は、小さな小屋で1日かけて燃やされ吊われた。



甲斐城 かぶらき

ReSEARCH of PLACES



MAP A 高架道路 ▶ 高架下スペース

甲斐城漁港を歩いてみて、なんだか【家】と【港】が近いと感じた。これは国道の道幅を広くする工事を行った際、海岸を埋め立てずそのまま波止場の真上に高架道路を掛け渡したからだそうだ。この波止場は今でも船の停泊に使われている。

そんなふうに来た高架下のスペースは、漁船を引き上げるウインチ（重い物をけん引するための機械）、網やカゴなどの漁具、それを修理する工具：漁をするために欠かせない道具が置かれる「作業空間」として機能する。他には、物干し竿や階段に干された布団、漬物用の大根、引退した漁師のおっちゃん達がいつも座って海を眺められるあり合わせの椅子、テーブルが高架下において、憩いの「生活空間」になっている。

仕事も生活も一緒にたっている自然な居心地の良さは、初めて見た方にとっては新鮮でもおもしろく、思わずカメラを向けてしまう風景、地形的ようだ。



- 路地裏
- 神社
- 半農半漁 / 酒造り
- トンネル

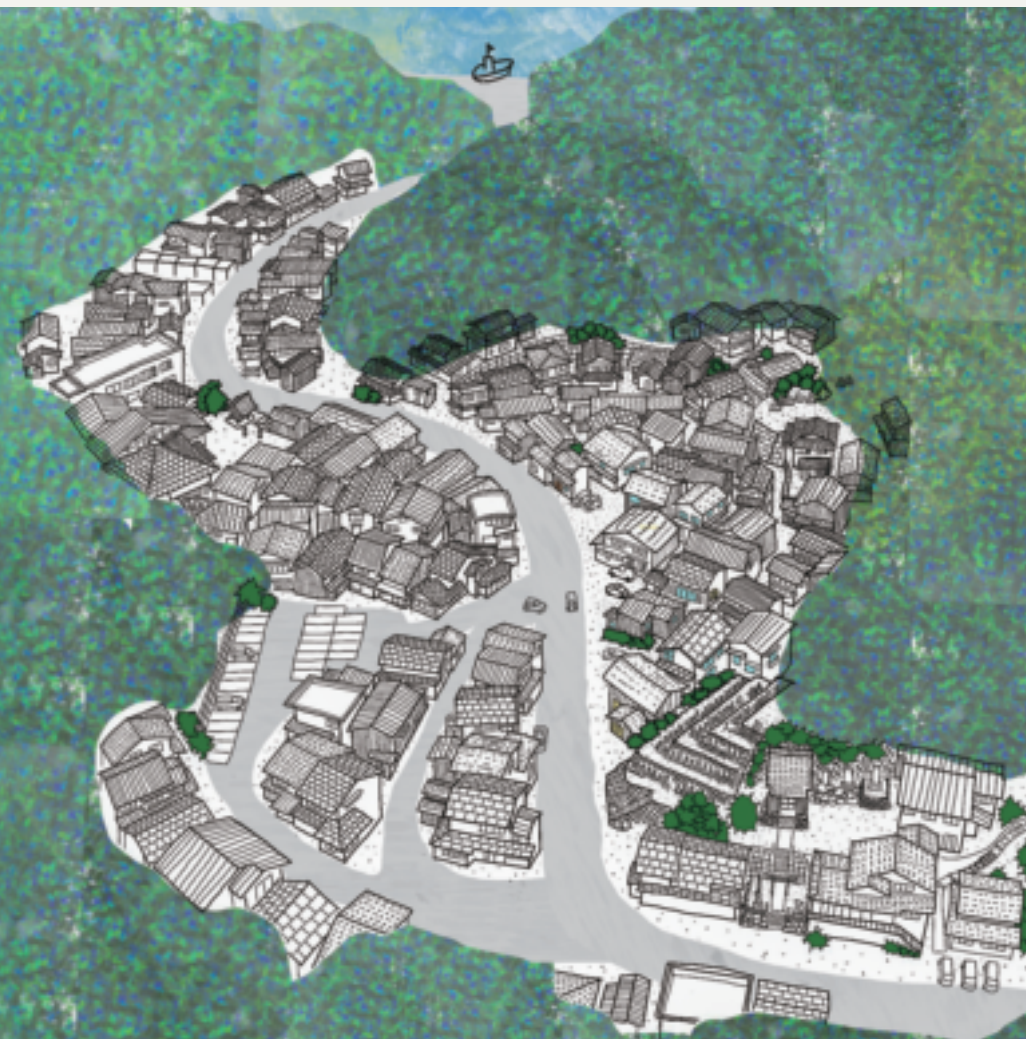
半農半漁と杜氏と路地裏

35.851412887266946, 136.0415581541628

糠

NUKA

VILLAGE



MAP
B

Roji Kukan
路地空間

集 落に入るとすぐ、川だった蛇行する道がある。その両脇に家々が建ち並び、道に向けていた視線を少し左右に振るとその間から細い路地がちらっと見える。入ってみると、路地が曲がりくねりながら続き、小さな玄関には植木や物干し、生活の気配がある。これだけの密度でどうやって家を建ててきたんだろう？ と思いながら路地裏を歩くうちに、いつの間にか元の道に戻ってくる。もし路地裏で住民の方に出会ったらご挨拶をお忘れなく。



じゅうくしゃ

十九社神社

おどちのみこと

大 戸道尊を御祭神とし、あわせて十九神(七仏薬師・十二神将)を祀る神社。過去の災害で崖崩れが起きて社殿が崩壊し現地に移建。門に神輿が納められており、毎年この神輿を担いで村中を周り村人の平安を祈る。境内からは、集落の屋根の重なりの方こうに海が見える。糠らしい景色だ。



海沿いの民宿街 長島

国 道305号が整備された1970年代。関西から海水浴客が増え、越前海岸ブームが到来すると民宿がたくさんできた。河野でも毎年11月から新鮮な越前ガニが食べられる。民宿の前に並ぶ、カニを茹でる釜から蒸気が立ち昇る光景は、河野の冬の風物詩だ。

※越前ガニ漁は河野では行っていません。

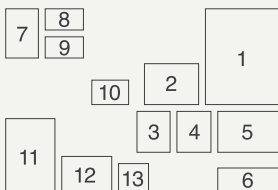




糠河川トンネル

水が流れる大きなトンネルの中を覗いた先に小さく光る出口が見える。かつての糠川は集落の真ん中を蛇行する川で、大雨の度に氾濫しずっと住民を悩ませてきた。そこで糠川を付け替え[集落上流～河川トンネル～日本海]へと水を流し、道路を広くした。住民の命と財産、安全交通を願う改修工事は15年がかりで無事完了した。

1-集落風景 2-お神輿 3-狛犬 4-鳥居 5-瓦屋根 6-民宿街 長島の看板 7-糠河川トンネル 8-集落道路 (1959) 9-集落道路(2023) 10-特務艦関東慰霊碑 11-酒造功勞碑 12-糠の杜氏たち 13-寄進者銘板



松尾神社

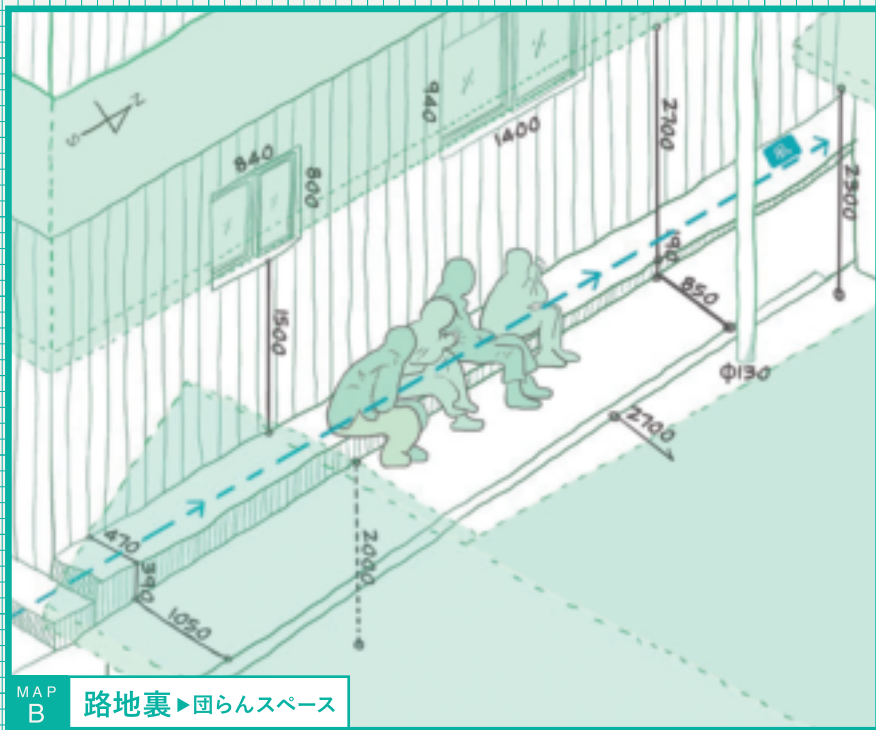
冬、日本海側では漁に出られないため半農半漁になる。特に糠集落は田畑が少ないので、酒造りの出稼ぎをした。明治44年には『越前糠酒造杜氏組合』を結成。京都の伏見・兵庫の灘など各地の蔵元で活躍した。松尾神社には杜氏達の功勞碑や各地の蔵元・もやし屋(種麴の専門業者)の寄進者銘板がある。





疲ぬか

ReSEARCH of PLACEs



たい見守りの目になっている。

「今日は〇〇がいんねえ、どうしたんやろのお?」「さっき商店にいたじゃ。今日は孫が遊びに来てるみてえで、デイサービスは休みでねえ。」この周辺は一人暮らしの人も多い。ここでの何気ない会話で互いに日々の安否を確認し合い、それが地域にとって、ゆるくもありが

たい見守りの目になっている。 糠地区袋町の路地裏にあるスペースが寄合所のように使われていることに気づいた。まち歩きイベントの下調べで訪れたこの場所。4月、暖かい日が続くようになると、奥様たちがお茶菓子を持ち寄ってそこで団らんしている。何やら楽しそうに話しているその光景があまりにも素敵で、そのまま勢いで輪の中に突撃し僕も飛び入りで参加させてもらった。通称「ババ会」という集まりで、夏には路地の隙間から通り抜ける涼しい風を浴び、皆で暑さを凌いでいるそう。3、4年前から自然にひとり、またひとりと集まり、この路地裏の団らんは今もずっと続いている。





働いています。

道の駅 河野(食事処)
玉村 勇さん

福井県初の道の駅『道の駅 河野』で1997年オープン以来毎日家族で料理を提供している。冬期のみ1日10杯限定のカニ丼は隠れた名物。海が見える席からのロケーションは最高!

▶MAP と-1



漁師
千馬 龍平さん

河野で育ち、18才で漁師に。2児の父として定置網漁船に乗るかわら、小漁師の日常をYouTubeで配信中。スケボーチーム『KON.』のメンバーとして県内スケーターの育成に貢献する!

▶MAP へ-0



リアルスナップ。

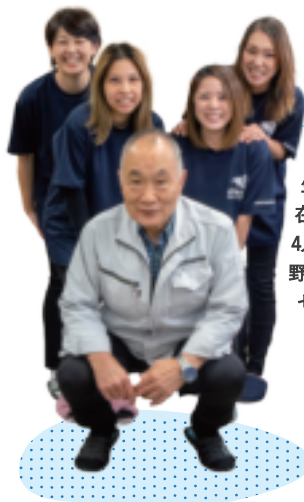
workin KONO

河野村漁業協同組合
のみなさん

毎日の仕事は、漁民の生産物の販売事業。現在は組合長と女性職員4人が働く。職員全員が河野在住で、職場までのアクセスも良く家事・子育てとも両立しやすい。河野の漁業を支えます!

▶MAP は-2

※場所:河野漁業会館



漁師
大平 果歩さん

休日、釣りに来たことがきっかけで漁師を目指し移住。透き通るように綺麗な河野の海が好き。仕事が終わると毎日釣りに行くくらい釣りが大好き。今では苦手な刺身も食べられるように!

▶MAP ぼ-1



私たち、河野で

美容室うえせ

上瀬はる代さん
美晴さん 国代さん

三姉妹で美容室を営み
毎日海を眺めながらのん
びり仕事をする。仕事着
は3人いつも日替わりでお
そろいなのが可愛らしい。
常連さんとの会話から河
野の情報が集まったリ
する場所！

▶MAP ぽ-1



河野郵便局長

橋本 賢治さん

海と郵便を愛する男。
郵便局勤務28年、顔
がわかる距離感でお客
さまからの信頼や感謝
の気持ちにやりがいを感じ
る。休みの日は釣りや
海人(あま)をすることが
楽しみ！

▶MAP に-1



河野人の、生活の

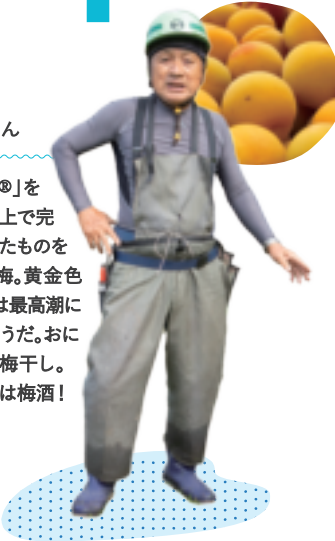
Snap-Clap

梅農家

濱野 好己さん

河野で「黄金の梅®」を
つくる第一人者。樹上で完
熟させ、自然落下したものを
収穫するブランド梅。黄金色
に熟れた梅の香りは最高潮に
達して、甘い桃のようだ。おに
ぎりの具の定番は梅干し。
一番好きな食べ方は梅酒！

▶MAP に-1

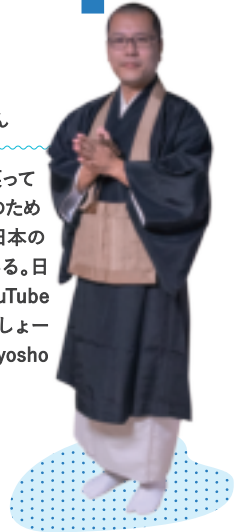


善導院 僧侶

清水 良将さん

Uターンで河野に戻って
きた4児の父。修行のため
15年以上インドと日本の
2拠点生活をしている。日
課のお経を毎日YouTube
で配信！『りょーしょー
お寺チャンネル/Ryosho
Temple』

▶MAP へ-1



みなさんいい顔！



うらの この MAP

-  トイレ
-  駐車場
-  国道
-  県道

0m 250m 500m
徒歩約7分



MAP A

甲楽城地区



最後まで読んで頂きありがとうございます。本を通して伝えられたことを少しだけ。

「裏」をテーマとしたのは「河野の魅力は、表だけじゃない」と言いたかったからです。もっと言うと、表裏だけじゃなくて、その間にはどちらともはつきりしないグラデーションがあり、つまり、まちは多層なものだ。それって、人それぞれに価値観があって、その価値観でもって見る表と裏があって、というふうには価値観の地層がまちのそこらじゅうに折り重なって、文化や生活になっていくんじゃないかなあと思っています。

観光として、住まいとして、働くところとしてま

あとがき



MAP
B

糠
地区



Instagram



facebook

まち歩き
開催情報はコチラ



田上夏伊

2024年3月
南越前町役場のデスクにて

知らないまちを歩く時、
いかに自然に溶けこむ
かが重要だったりしま
す。その時、この本が河
野へのパスポートのよ
うな存在になり、知り
たい気持ちを住民に伝
えられるツールになれ
ばとワクワクしながら
願っています。

まちの過去や歴史を知
り、現在を発見し、未来
を見つめる。
僕はまちを博物館に見
立て、歩くことでそのこ
とに気づききっかけを
もらいました。この本を
片手に河野を歩いてく
ださい。

発行：2024年3月 南越前町
編集：田上 夏伊（南越前町 地域おこし協力隊）
構成協力：古川 朋香
デザイン：高嶋 ゆい（pose）
写真：黒川 潤音
表紙写真：ネモト カエデ



協力

新谷和明、右近恵、大浦和博、川地愛、小角譲、酒井亨、
酒井正信、芝生かおり、清水明菜、清水良将、田中正則、
寺下貢、堂下裕昭、刀禰哲秋、浜野一治、濱野好己、
濱端利広、南清美 / まち歩き参加者 / 河野の皆様